

# 100年企業を訪ねて

～長寿企業のたゆまぬ努力とその魅力に迫る～

## File 02 / オリエンタル火工(株)

### 人の和・企業の和・社会の和 誠意と挑戦で咲かせる大輪の花



しんどう ひろし  
進藤 博司  
オリエンタル火工(株) 代表取締役

1960年、さいたま市大宮区(旧大宮市)に生まれる。日本大学で応用化学を学び、日本化学(株)を経て、1986年にオリエンタル火工(株)入社。1998年、先代・孝氏より事業を承継し、代表取締役に就任。

しんどう ひろき  
進藤 大輝  
オリエンタル火工(株) 取締役

1995年さいたま市大宮区生まれ。日本大学大学院で化学を修めた後、オリエンタル火工(株)に入社し、同業の信州煙火工業(株)に出向。2021年帰社、取締役就任。

2021年(令和3年)に創業120周年を迎えたオリエンタル火工(株)。現在ではさいたま市内唯一の花火製造会社となった同社は、大宮の発展と足並みを揃え、戦災や不況を乗り越えて家業を守り継いできた。その長い歩みについて、3代目である進藤博司社長と、4代目大輝取締役にお話を伺った。

#### 鉄道開業で発展著しい大宮と共に

当社の前身は、1901年に私の祖父である進藤儀一郎が大宮の堀の内で設立した、進藤煙火工場という花火製造会社です。当時の大宮は1894年の鉄道停車場開業を受けて成長著しい時代で、飲食店などもたいそう繁盛していたそうです。

そこで、隅田川の花火のような大会を大宮でもという声があがり、大正10年に初代と近隣の同業者が見沼用水の橋のたもとで花火を打ち上げました。それが大宮花火大会(現さいたま市花火大会)の始まりとなりました。

#### 戦火を乗り越え発展する事業

昭和に入って間もなく、日本は戦争へと傾いていきます。満州事変、そして太平洋戦争の勃発によって、火工技術を持つ煙火店は軍の要請によって火工品製造工場へと転用されることになりました。敗戦にともなってGHQの命により工場は閉鎖され、一時廃業に追い込まれますが、すぐに業務を再開。そこからは平和のための花火製造に打ち込んでまいりました。

現在の社名であるオリエンタル火工(株)に改組したのは1961年(昭和36年)で、ほぼ同時に父・孝が二代目として事業を承継しています。高度復興期にも重なり、父は都市化が進む大宮から、郊外の寄居町に工場を移転。好景気を受けて全国で盛んに花火大会やイベントが開かれた時代で、需要に対応すべく新工場を開設するなど、当社を大きく成長させてくれました。

#### 難易度の高い都市型花火大会をけん引

そんな父の跡を継ぎ、私が3代目となったのは1998年(平成10年)のことでした。バブル崩壊後、しかも父の病気による急な代替わりだったため、暗中模索の承継でしたが、頼りになる社員に支えられてどうにか乗り越えることができました。

景気以外にも難題は山積みでした。さいたま市は既に大都市

になっており、条例によって花火大会の開催にも様々な規制がかかるようになっていました。どんどん人家やビルが建つ市街地では打ち上げ場所も限られる。その一方で観客は増え、セキュリティ対策も難しい。

より美しく新しい花火を作るべく技術開発に打ち込みつつ、安全に大会運営すべく主催者と話し合い、警察や消防と調整を行ってきたのも、花火を見上げて歓声をあげるお客様の笑顔が見たい。その一念からです。

#### さいたまの花火の伝統を次の世代へ

自らの苦勞を踏まえて、将来を託す四代目には大学院にて多くを学んだ後に入社してもらいました。より瑞々しい感性で、新しい花火の開発をと期待してのことです。しかし、ここでもコロナ禍が立ちふさがりました。花火業者にはまさに暗黒の時代です。

大きな大会やイベントは、ひとたび中止してしまうと、再開には本当に多大なエネルギーが必要になります。さらには停滞によって技術が失われてしまう恐れもある。

ですから、これまで東日本大震災やその後の台風被害など、多くの困難を乗り越えてきた経験をいかし、今回もふんばって、社員と技術を守りながら時を待つことにしました。

幸いにして花火の中に詰める星(火薬の玉)は、長時間寝かせることでこなれて、よりよい状態になります。美しい花火を見たいといったださる多くの方々のために、丹精込めて手作りした花火玉をのびのびと打ち上げられるようになるまであと少しでしょうか。

さいたま唯一の花火業者として、地元企業や関係各所、花火を愛する皆様にぜひご協力いただき、大輪の花を大空に咲かせ続けたいと思います。



創業120年の伝統と、革新性をあわせもった花火と、技術を磨き続けている。